

## 名誉会員の紹介

第 570 回理事会（2012 年 1 月）の議を経て、下記の方が 2012 年度定時総会（2012 年 6 月 5 日）において名誉会員に推挙されました。



### 安西 祐一郎 君

あんざい ゆういちろう

1974 年 3 月	慶應義塾大学大学院工学研究科修了 工学博士
1985 年 4 月	北海道大学文学部助教授
1988 年 4 月	慶應義塾大学理工学部教授
1993 年 10 月～2001 年 5 月	同大学理工学部長兼大学院理工学研究科委員長
2001 年 5 月～2009 年 5 月	慶應義塾長
2011 年 10 月～現在	独立行政法人日本学術振興会理事長
1976 年 6 月～1978 年 6 月	カーネギーメロン大学博士研究員
1977 年 7 月	エジンバラ大学訪問研究員
1981 年 9 月～1982 年 8 月	カーネギーメロン大学客員助教授
1990 年 7 月～8 月	マギル大学客員教授
2005 年 10 月～2011 年 9 月	日本学術会議会員
2001 年 4 月～現在	玉川大学特別研究員・客員教授
2009 年 5 月～現在	慶應義塾学事顧問
2011 年 10 月～2012 年 3 月	慶應義塾大学環境情報学部客員教授

#### 本会関係略歴

- (1) 1985 年 2 月入会
- (2) 会誌編集委員（1986 年度～1987 年度）
- (3) 創立 30 周年記念国際会議プログラム委員（1988 年度～1989 年度）
- (4) ヒューマンインタフェース研究会主査（1991 年度～1994 年度）
- (5) 理事（1993 年度～1994 年度）
- (6) フロンティア領域委員長（1995 年度～1996 年度）
- (7) 調査研究運営委員会委員長（1997 年度～2000 年度）
- (8) 副会長（2002 年度～2003 年度）
- (9) 会長（2005 年度～2006 年度）
- (10) 1987 年度論文賞
- (11) 2007 年度功績賞
- (12) 2008 年度フェロー

## 2011年度功績賞

功績賞は、情報処理に関する学術または関連事業に対し特別の功労があり、その功績が顕著な会員に贈呈されます。

本年度の受賞者は関連規程に基づき、第571回理事会（2012年3月）の議を経て、下記の3君に決定され2012年度定時総会（2012年6月5日）において、賞状および賞牌が授与されました。（記載は会員番号順）



木村 泉 君  
きむら いずみ

本会正会員木村泉君（フェロー）は、永年にわたりプログラミング、ヒューマンファクタ、情報処理教育カリキュラム等の分野で研究に携わってこられました。

1971年に東京工業大学での教職につかれましたが、そこで精力的に研究・教育に従事され、その傍ら、「プログラム書法」「ソフトウェア作法」などの翻訳書を世に出されています。特に後者は、自らの研究室で開発を指揮した日本語処理システムにより編纂した、我が国最初のコンピュータ組版による日本語書籍であるという先進性を持つのみならず、発刊から40年以上を経た今日でも書店で入手可能なベストセラーであり、「よいプログラムを書く」という概念を広く知らしめた功績は卓越したものです。同様に、「ライトついでますか」をはじめとするG. M. ワインバーグの一群の著述の翻訳、著書「算法表現論」（米澤明憲君と共著）、「ワープロ徹底入門」などでは、情報システムの仕様や問題解決の難しさ、プログラムの表現の多様な側面、情報機器との接し方やヒューマンファクタについての知見を世の中に

広められました。この間、本会においては、理事（1985年度～1986年度）、ソフトウェア工学研究会主査（1981年度～1984年度）、文書処理とヒューマンインタフェース研究会主査（1987年度～1988年度）、ヒューマンインタフェース研究会主査（1989年度～1990年度）を務められ、学会の発展に貢献されました。一方で、情報処理教育カリキュラムの開発にも深い造詣を示され、ACMカリキュラム90の翻訳を会誌に掲載するとともに、大学等における情報処理教育検討委員会委員（1989年～1990年）、情報処理教育カリキュラム調査委員会委員（1991年～1998年）として我が国の大学におけるコンピュータサイエンス教育に対する提言とりまとめに貢献されました。

以上のように、同君が、我が国の情報処理分野ならびに本会の活動の発展に尽くした功績は、まことに顕著であります。



勅使河原可海 君  
てしがわら よしみ

本会正会員勅使河原可海君（フェロー）は、永年にわたりコンピュータネットワーク・衛星データネットワークの分野の研究・開発に携わってこられました。

1970年日本電気株式会社に入社されて以来、コンピュータネットワーク、無線パケット通信やOSI通信、インターネットをはじめとする情報通信ネットワーク分野で、数多くの研究・開発の業績をあげられるとともに、国内外のISOにおける標準化活動や、AOW、INTAP、TTCなどの関連する標準化組織においてもリーダーシップを発揮して、同分野の標準化の面でも多大な貢献をされました。さらに、早期にコンピュータネットワークや無線パケット通信に関する入門書を上梓し、コンピュータネットワーク分野の啓蒙・普及に尽力されました。

1995年創価大学に移り、教育分野にも力をいれ、1997年創価大学工学部コンピュータセンター長、2001年工学部長、2003年大学院研究科長、2007年研究開発国際連携推進センター長などを歴任され、教育・研究のみならず、組織運営にもリーダーシップを発揮されています。

本会においては、OSI関連の標準化委員会、研究会、シンポジウムなど、幅広い分野において活躍され、理事（1991年度～1992年度）、情報環境領域委員長（1997年度～1998年度）、日本工学会評議員（1992年度～1993年度）などを歴任され、2001年度には本会フェローの称号を授与されています。また、電子情報通信学会や日本オペレーションズ・リサーチ学会において研究会の委員長、主査を務められ、研究会の創設・運営に多大な貢献をされました。

以上のように、同君が、国内外の情報処理分野ならびに本会の活動の発展に尽くした功績は、まことに顕著であります。



村上 篤道 君  
むらかみ とくみち

本会正会員村上篤道君（フェロー）は、永年にわたり情報通信・メディア処理分野の研究に携わってこられました。

1971年に三菱電機株式会社に入社され、パターン認識、信号処理プロセッサ、マルチメディア技術の分野で、数多くの優れた研究業績をあげられるとともに、成果の実用化にも多大な貢献をされました。映像信号の圧縮符号化に関する研究では、成果を学術面だけでなく、国際標準化ISO/IEC JTC 1やITU-Tの提案に活用され、テレビ会議・テレビ電話システムやデジタル放送、インターネット映像配信の実現に尽力されました。また、画像信号処理に適した高速プロセッサとして、演算入力と結果に割り当てる個別のバス、画像上の領域指定に適したアドレス回路等を備えたDigital Image Signal Processorを開発され、プログラマブルな映像符号化伝送を実現するなどの成果もあげられました。超高精細映像の研究開発では、自然画像とグラフィクスを高速に描画可能な超高精細PCを開発して空港内管制用に適用さ

れ、社会インフラの安全にも寄与されました。

本会においても、理事（2002年度～2003年度）、副会長（2009年度～2010年度）を歴任され、本会全国大会、FIT、DICOMO等、学会行事の企画と運営に尽力されるとともに、本会の一般社団法人化の推進、およびそれに伴う本会の経営基盤改革に貢献されました。また、本会情報規格調査会役員（2008年度）も務められ、国際標準化活動の推進と地位向上に貢献されました。2007年度には本会フェローの称号を授与されています。本会以外の学会でも、監事、理事、評議員、多数の国際学会のプログラム委員等として学術振興に尽力され、IEEE、電子情報通信学会、映像情報メディア学会からフェローの称号を授与されています。

以上のように、同君が、国内外の情報通信・メディア処理分野の学術および産業の振興、ならびに本会の活動の発展に尽くした功績は、まことに顕著であります。

# 各賞表彰(概要)

詳細は Web サイト ([http://www.ipsj.or.jp/annai/aboutipsj/award/sho\\_index.html](http://www.ipsj.or.jp/annai/aboutipsj/award/sho_index.html)) をご覧ください

## 2011 年度論文賞の表彰

本賞の選考は、表彰規程および論文賞受賞候補者選定手続きに基づき、論文賞委員会(委員長 水野忠則)が、対象論文 486 編\*につき慎重に審議を行いました。その結果、下記の 7 編が受賞候補論文として選定され、理事会承認(2012 年 3 月 26 日付、定款上の理事会決議の省略手続きによる)を得て決定されました。なお、本会表彰規程により、2012 年度定時総会(2012 年 6 月)において著者に表彰状、賞牌および賞金が授与されました。

\* 選考を行ったのは「論文誌 ジャーナル」「Journal of Information Processing」「論文誌 プログラミング」の 3 誌です。

以下 6 誌については対象論文がそれぞれ 50 編に満たないため、論文賞選定は翌年以降に持ち越すこととしました。  
「論文誌 数理モデル化と応用」「論文誌 データベース」「論文誌 コンピューティングシステム」「Transactions on Bioinformatics」「Transactions on System LSI Design Methodology」「Transactions on Computer Vision and Applications」

### 【情報処理学会論文賞】

#### ○「遠隔ユーザのジェスチャの可視性を向上させる手法の提案と評価」

【情報処理学会論文誌 Vol.52, No.1, pp.97-108 (2011)】

山下 直美君(正会員) 梶 克彦君(正会員)  
葛岡 英明君(正会員) 平田 圭二君(正会員)  
青柳 滋巳君(正会員)

#### ○「手に保持されたセンサを用いた歩行者向けデッドレコニング手法の提案」

【情報処理学会論文誌 Vol.52, No.2, pp.558-570 (2011)】

上坂 大輔君(正会員) 村松 茂樹君(正会員)  
岩本 健嗣君(正会員) 横山 浩之君(正会員)

#### ○「架空名義操作不可能な施設配置メカニズムの特徴付け」

【情報処理学会論文誌 Vol.52, No.4, pp.1657-1666 (2011)】

東藤 大樹君(学生会員) 岩崎 敦君(正会員)  
横尾 真君(正会員)

#### ○「WWW からの大規模動詞含意知識の獲得」

【情報処理学会論文誌 Vol.52, No.1, pp.293-307 (2011)】

橋本 力君(正会員) 鳥澤健太郎君(正会員)  
黒田 航君 デサーガステイン君  
村田 真樹君(正会員) 風間 淳一君(正会員)

#### ○「エラー検出可能な軽量 3 パーティ秘匿関数計算の提案と実装評価」

【情報処理学会論文誌 Vol.52, No.9, pp.2674-2685 (2011)】

千田 浩司君(正会員) 五十嵐 大君(正会員)  
濱田 浩気君(正会員) 高橋 克巳君(正会員)

### 【Journal of Information Processing Outstanding Paper Award】

#### ○「Ordered Types for Stream Processing of Tree-Structured Data」

【Journal of Information Processing Vol.19, pp.74-87 (2011)】

Ryosuke Sato 君 Kohei Suenaga 君(正会員)  
Naoki Kobayashi 君(正会員)

### 【情報処理学会論文誌 プログラミング 優秀論文賞】

#### ○「Traceglasses: 欠陥の効率良い発見手法を実現するトレースに基づくデバッグ」

【情報処理学会論文誌 プログラミング Vol.3, No.3, pp.1-17 (2010)】

櫻井 孝平君 増原 英彦君(正会員)  
古宮 誠一君(正会員)

※ 上記( )の会員情報は論文掲載時のものです。

## 2011 年度喜安記念業績賞の表彰

本会では、名誉会員故喜安善市先生のご遺族から寄贈いただいた資金により、産業界における顕著な業績を顕彰するため、「喜安記念業績賞」を設けております。

本賞は、情報技術に関する新しい発明、新しい機器や方式の開発・改良、あるいは事業化プロジェクトの推進において、顕著な業績をあげ、産業界への貢献が明確になったものを選定し、その貢献者に贈呈するものです。

本年度の受賞者は、「喜安記念業績賞候補者推薦用紙」により推薦された候補のうち、表彰規程および喜安記念業績賞候補者選定手続きに基づき、寺中副会長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、理事会承認(2012 年 3 月 26 日付、定款上の理事会決議の省略手続きによる)を得て、下記の 3 件の業績の貢献者 14 名に決定されました。

受賞者には、本会表彰規程により、6 月 5 日に開催された 2012 年度定時総会において、表彰状、賞牌および賞金が授与されました。

#### ○「議会の会議録作成のための音声認識システムの実用化」

河原 達也君(正会員) 秋田 祐哉君(正会員)  
三村 正人君 堀 貴明君  
小橋川 哲君

#### ○「自動車向け狭域無線通信システムの通信基盤確立と標準化および実用化」

伊川 雅彦君(正会員) 後藤 幸夫君  
熊澤 宏之君 森田 茂樹君

#### ○「C 言語プログラムから LSI を高位合成する統合設計システムの実用化」

若林 一敏君(正会員) 竹中 崇君(正会員)  
高橋 渡君 野田 真一君  
中村 寿彦君(正会員)

## 2011 年度長尾真記念特別賞の表彰

本会では、第 20 代会長長尾真先生(京大名誉教授/国立国会図書館長)からご寄贈いただいた資金により、情報処理の研究・開発に携わる優秀な若手研究者を顕彰するため、「長尾真記念特別賞」を設けております。

本賞は、情報処理の学術・技術にかかわる分野でその研究開発に特に顕著な貢献が認められ、今後の進歩、発展が期待される 39 歳までの研究・開発者に贈呈するものです。

本年度の受賞者は「長尾真記念特別賞候補者推薦書」により推薦された候補者のうち、表彰規程および長尾真記念特別賞候補者選定手続きに基づき、水野副会長を委員長とする選定委員会において厳正な審査を行い、理事会承認(2012 年 3 月 26 日付、定款上の理事会決議の省略手続きによる)を得て、下記の 3 名に決定されました。

受賞者には、本会表彰規程により、6 月 5 日に開催された 2012 年度定時総会において、表彰状および賞金が授与されました。

#### ○「身体性インタラクションに基づくエンタテインメントコンピューティングの研究」

稲見 昌彦君(正会員)

#### ○「高臨場感通信のための次世代映像符号化に関する先駆的研究」

坂東 幸浩君(正会員)

#### ○「ヘテロニアスネットワークコンバージェンスに関する研究」

峰野 博史君(正会員)